

受身構文の日中対照研究 -主語と行為者の有生性について-

曾勇

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

owenzyx@gmail.com

1. はじめに

本研究の目的は、被害性や能動文との対応関係などの一側面から日本語と中国語の受身文を対照し、理論面でその異同を明らかにすることではなく、両言語における受身構文の実例をながめ、そこから構文タイプを抽出する。さらに、その体系を記述し、対照することである。

1.2 日本語の研究の概要

日本語の受身は主に主語の有生性（固有の受動文・非固有の受動文）、行為者の表示方法（に、から、によってなど）、能動文との対応関係（直接受動文・間接受動文）、迷惑の意味の有無などについて論じられてきた。しかし、「これらの議論は受身文の意味と構造的特徴についての主に理論面での研究であり、これらの理論が記述的に丁寧に検証されているとはいいがたい。」（志波 2015 : 27)

1.2 中国語の研究の概要

中国語の受身文についての研究は主に受身文の分類（及びどのようなものを受身文と考えていいのか）、マーカー“被”の性質（前置詞なのか、動詞なのか）、意味特徴（受影や被害）、ほかの構文（“把”構文やSV0文）との関係、構文の拡張（欧化現象や近年ネット上の流行語）などについて論じている。日本語と同じように理論面の研究が多く、理論を検証するための記述研究が少ないように見える。

1.3 対照研究の概要

日中両言語の受身文の対照研究では、1つの言語だけで行われた理論研究で議論されていることを比較している研究以外、実例に基づいた研究も見られた。飯島（2007）、梅佳（2014、2016）は日中対訳コーパスを用いてそれぞれ論説文の中の受身文、小説の中の行為者なし受身文と直接受身文がどのように中国語に訳されているかを考察している。しかし、いずれの研究でも考察されているのは日本語の受身文とそれの中国語訳だけで、中国語の受身文は考察されていない。日本語と中国語のそれぞれの受身文の実例に基づいた対照研究はまだ見られない。

2. 構文タイプとその抽出方法

はじめにで実例から構文タイプを抽出し、そのうえで対照をすると述べたが、この「構文タイプ」とは何かを以下の例で説明する。志波（2015）は例1～4から（5）のような構文タイプを抽出している。

- (1) 和夫は {自分の性癖／リュウマチに／人員の不足に} 悩まされている。
- (2) 「夏用の離宮ですの。うんざりするような観光地。でも、その広さには、やっぱりびっくりさせられますわ」（ドナウ）
- (3) 「(徳川) 家康が江戸に幕府を開いたのは富士の美しい眺望に魅せられたから。さらに、富士見は不死身に通じた」（毎日）
- (4) 昨日と同じに、三原は彼の態度に気圧されるのを感じた。（点と線。地）
- (5) A I 心理・生理的状态型

対象=受影者 A Nーガ SUB 原 現象／抽象 I NーニCOM 因 心理的状态 心理的状态 Vーラレル 「われわれは人員の不足に悩まされている」 能動文が不自然

これらの例から抽出された構文タイプは（5）にまとめられている。つまり、「対象=受影者」という意味役割を持つ有生名詞（AN）を主語（SUB）にとり、現象や抽象物を表す無生名詞（IN）を「原因」として補語（COM）にとり、「心理的状态」を表す心理状態動詞（V）＋ラレルを述語にとる受身文タイプである。その典型例として、「われわれは人員の不足に悩まされている」が挙げられ、「能動文が不自然」が重要な特徴として明記されている。

では、このような構文タイプは直接例文を見て抽出したのか。そうでもない。志波（2015）はコーパスから抽出した受身文をまず主語と行為者の有生性で4つの大きなタイプに分けている。そのうえで、文の各要素のカテゴリー的な意味を中心に格関係、主題性、アスペクトなどを総合的に考えて4つの大分類をさらに細かく分け、やっと（5）のような構文タイプにたどり着く。

3. 本研究で扱う中国語の受身構文

劉月華他（1991）は中国語の受動文について、以下のように述べている。

中国語では受身の意味を表す受動文“被动句 bèidòngjù”に二種類ある。一つは何のマークもないので、このタイプの受動文は形式上は能動文“主动句 zhǔdòngjù”と変るところがなく、意味上の受動文と呼ばれる。もう一つは受身の意味を表す介詞“被 bèi”、“叫 jiào”、“让 ràng”、“给 gěi”等を用いる文で、このタイプの受動文は普通“被”で代表して“被”構文（“被”字

句“bèi” zìjù) と呼ばれる。

(劉他 1991 : 641)

しかし、本研究ではその中の“被”を用いる“被”構文だけを考察の対象とする。その理由については 3.1 と 3.2 で述べる。

3.1 “被”構文と意味上の受動文

“被”構文を研究対象とするのに、意味上の受動文を扱わない理由は 2 つある。1 つは、意味上の受動文を受動文と考えていいかは研究者の間で意見が統一していない。もう 1 つは、「形式上は能動文“主动句 zhǔdòngjù”と変るところがない」ため、コーパスから大量に抽出することが難しい。

3.2 “被”を用いる“被”構文と“叫”、“让”、“给”等を用いる“被”構文

“被”を用いる“被”構文しか扱わない理由も 2 つある。1 つは“被”はほとんど受動文にしか使われないのに対して、“叫”、“让”、“给”等は受動文以外の文にも多く使われる。もう 1 つは、“被”は行為者の現れる受動文、いわゆる“长被句 (long passive)”にも行為者の現れない受動文、いわゆる“短被句(short passive)”にも用いられるのに対して、“叫”、“让”、“给”は前者にしか使われない(劉他 1991 : 649)。それゆえ、“叫”、“让”、“给”を“被”と同列で扱うのは適切ではないと考える。

(6 a) 他 被/叫/让/给 人 打 了。
彼 bei 人 殴る た
彼は人に殴られた。

(6 b) 他 被/*叫/*让/*给 φ 打 了。
彼 bei 殴る た
彼は殴られた。

4. 今回の調査で扱った受身構文と調査の結果

今回は北京大学の中国語コーパス CCL を用いた。中国の主要な新聞「人民日報」のコーパスで収録されている一番新しい年分(2000年)から“被”構文を 500 例ランダムに抽出した。主語・行為者の有生性で 6 つに分けた。英字 2 つの場合、左のは主語を、右のは行為者を指す。英字 1 つの場合、主語を指す。例えば、「A」は主語が有情者である文を指す。「A I」は主語が有情者で、行為者が非情物である文を指す。

タイプ	A	AA	AI	I	IA	II
用例数	165	74	29	152	57	24

表 1

志波（2015）にならって、主語と行為者の有生性で4つの分類にまとめたら、表2になる。

主語 \ 行為者	有情者	無情物
有情者	239	29
非情物	209	24

表 2

この2つの表から分かるのは、中国語は日本語と同じ、「非情行為者の受身構文は、頻度が非常に低い」（志波 2015：45）。そして、「非情主語有情行為者の受身文に相当する文の文中に行為者が現れることが極めて少ない」（志波 2015：44）日本語に対して、中国語ではかなり見られた。しかし、今回扱った受身文は全文新聞からとったので、小説の会話文や地の文、そして評論文などでも同じなのかはまだ検証が必要である。

5. まとめ

主語と行為者の有生性で分けた受身文の4大分類で日中両言語の異同を考察した。受身文の構文タイプを取り出すためにはそれ以外、各要素のカテゴリー的な意味や格関係などを考察しなければならない。それを今後の課題とする。

参考文献

- 飯嶋美知子（2007）「論説文の訳文から見た受動文の日中対照研究—中国語母語話者への教育の一環として—」『早稲田大学日本語教育研究』（10）、pp. 17-30
- 梅佳（2014）「日本語受身文とその中国語訳文の対照研究—「動作主なし」の直接受身文を中心に—」『比較社会文化』第35号 九州大学比較文化学府 pp. 53-60
- 梅佳（2016）「日本語における直接受身の研究—中国語との対応関係を中心に—」九州大学博士論文
- 志波彩子（2015）『現代日本語の受身構文タイプとテキストジャンル』、和泉書院
- 劉月華 等（1991）『現代中国語文法総覧 下』、くろしお出版
- 尹洪波（2012）「汉语被动句研究说略」日中対照言語学会『日本語と中国語のヴォイス』白帝社、pp. 252-268
- 张伯江（2001）「被字句和把字句的对称与不对称」『中国语文』2001年第6期 pp. 519-524